

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|--|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「安心安全仲良しホーム地域と共に百歳からの再出発」と理念を掲げ、玄関及びホーム内にて掲示している。 | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員会議や新人研修等で理念の認知及び共有を通し、運営上の方向や目標等を具体化し話をしている。それを受けてすべての職員がその実現に向けて取り組んでいる。 | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族会や運営推進会議での説明、ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等) | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 近隣住民、家族、ボランティア等が入居者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等) 管理者及び職員は近隣の人と馴染みの関係を構築できている。 | |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の自治会に加入し運営推進会議等を通して自治会・民生員と交流があり、入居者の生活の安定や拡がりのために周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう働きかけを行っている。(商店・文化教育施設・消防等) | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議等で自治会・民生員を通し、施設職員が貢献出来ることはないかを話し合い、必要があれば職員が出向いたり施設で相談等を行っている。(地域相談日誌に記載) | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | サービスの質の評価の意義について法人代表者、管理者自らが熟知すると共に、職員に周知し。評価結果をサービス改善に活かしている。また、その体制がある。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、評価を受け止め出席者に報告、意見を聞いている。今後施設として取り組んでいく事項を明確化し、サービスの向上に努めている。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市が主催する講習会や研修会には積極的に参加している。認定後の資料依頼、相談など密に連絡をとりサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護・成年後見制度については事例マニュアルをつくり勉強会や職員回覧にて学んでいる。また必要な方には支援を行えるようにしている。(地域包括支援センターと連携) | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法施行の経緯と概要について文書を作成し、職員勉強会及び、日々、事例等について話し合い施設内での管理体制に注意をはらっている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|--|---|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者や家族に対して十分に時間をかけ不安や思いを聞き、説明・納得の上で契約、解約して頂けるように心がけている。 | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者からの苦情等に対し、相談窓口を設置、管理者が責任者となり処理体制・手順等が円滑かつ迅速に行えるようにしている。「苦情解決」指針を打ち出しそれに沿って職員・外部者へ公表し適切な支援、円滑・円満な解決の確保を図っている。 | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 健康面では、毎日のバイタルチェックにて状態を把握し、状況によっては主治医報告、家族連絡。金銭管理では自己管理にできない方は金銭出納帳にて管理・家族確認。職員の異動については随時及び運営推進会議・家族会・施設便り等で報告している。 | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱・相談窓口を設置し、気軽に意見が言えるような雰囲気作りを心掛けている。また、「苦情解決」の指針に沿って職員・外部者へ公表している。運営推進会議時に家族からの意見が聞かれ問題解決の為の話し合いを行い施設運営に反映させている。 | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営者・管理者は職員が意見や提案が出しやすい雰囲気作りを心掛け随時及び、職員会議等で話し合う場を設け、意見を受け止め・検討し、必要に応じて反映している。 | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 勤務表にて職務体制を確立しているが利用者の急変時等の職員の確保及び職員の希望休・有休及び体調不良時にも基準体制が組めるよう調整している。また、緊急時はいつでも交代できる「もちつ もたれつ」の気持ちをもつように指導している。 | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者、職員は入居者と信頼関係にある。異動や離職に際してはダメージを受けることも多く、その理由を話し理解して頂けるよう優しさをもって分りやすく接している。また、交代職員には早く馴染みの関係が作れるように指導している。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|---|----------------------------------|
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、職員希望の研修についても研修の働きかけや協力している。また、その内容をすべての職員に周知している。 | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会や他のグループホームでの研修や交流会・勉強会に参加し、互いに意見交換しサービスの質の向上のため取り組んでいる。 | |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 職員の相談窓口もあり、いつでも相談にのってもらえる。また、スタッフルーム(職員が十分くつろげる休憩場所)を設け、心身を休めるのに適した設備を有しており必要な備品も整っている。職員間では親睦会等を行っている。 | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 運営者は常に職員の状況を把握し、各自を理解している。また、個々の努力等を認め、職員が向上心持てるよに働きかけている。 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所に至るまで本人と面会し、本人が希望される施設での生活や入所に際しての不安や困っていることなど本人のペースでゆっくり受け止めることで信頼関係を築き安心して入所して頂けるよう心がけている。 | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族の希望があれば何度でも相談にのれるようにしている。利用者への家族の思いを組み取り、家族の希望される施設での生活等を時間をかけて聴くように努めている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|---|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者が「移り住むことのダメージ」を最小限に食いとどめる支援を考慮し、本人及び家族と共に必要とされる支援について十分話し合う。また、要望があれば他のサービスも含めた対応が柔軟にできるように努めている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人が馴染みの関係になるには時間を要する。まずは、その場に慣れて頂くことから始める。職員は本人と他の利用者との間の立ち関係作りに心を配る。また、家族に様子を知らせることで安心して頂き、状況に応じてサービス開始の時期を見極める。 | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員と利用者は寄り添いあい共に生活していく関係作りを基に、人生の先輩として職員は認識の下、押し付けがましいケアにならないように心がけている。本人を尊重し、自分らしく生きる為に時には学び得ること、時には支援することなど常に支え合う関係を築いている。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族と信頼関係をもてるように努力し、本人を支援する上で意見や要望を互いに出し合い一緒に支えていける立場にある。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人と家族の背景を理解し、時には相互に声掛けすることで本人と家族の距離が遠のかぬように支援している。また、家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている(歓迎、関係再構築の支援、湯茶の利用等) | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 理美容や病院受診はもとより知人や親せきなど本人の希望で電話や手紙、はがき等の支援を行い思いが通じる支援をしている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 個々の気持ちを重視しながらも利用者同士という関わりを大切にしていく。孤立する場合は間に立ち良い関係が築いていけるように努めている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | サービス利用(契約)が終了しても退所後、本人や家族に関わる保健医療、福祉の関係者等と十分な情報交換を行い、「退所援助報告書」を作成する。また、退所後も相談業務等の継続的支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者からの希望があれば買い物や散歩、外出行事や外食など取り入れ日々意向が聞ける環境を作っている。また、困難な場合は、本人が希望されるだろうなという思いを職員がくみ取れるように心がけている。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前に本人及び家族より生活歴や暮らし方など話を聞く時間をつくりアセスメントに反映させる。サービスの経過については、情報提供での把握に努める。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 障害歴と生活歴から浮かび上がる本人のパーソナリティー価値観などのケアにトータルな情報把握を心がけている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者や家族にサービス担当者会議の中で意見や意向を聞き、職員間で意見交換し、本人及び家族と相談しながら介護計画を作成している。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。(終了時及び期間中でも本人・家族とカンファレンスをおこない見直しプランを作成する。) | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の介護や介護計画に反映させるため個々の特徴や変化を具体的に記録し、職員間で共有しながら利用者の支援に活かしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 希望により病院受診介助、外出行事、買い物支援など柔軟に対応できるようにしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域資源の活用として警察・消防には緊急時依頼、芸術・文化・教育では、音楽鑑賞、催し物の展示、移動図書館の活用、またボランティアを行事時において民生員から地域の交流面での支援がある。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 本人の必要性に応じ他事業所及び他ケアマネジャーとの話し合いの場を設け必要なサービスの支援を行っている。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括支援センターの職員は当施設の運営推進員でもあり、権利擁護や長期的なケアマネジメント等が必要な場合はいつでも話し合える体制があり相談にも応じて頂いている。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族の希望で主治医をお願いしている。主治医とは情報交換はもとより往診等にて事業所との関係作りはできている。また、当ホームが協力医院となっているため緊急時の対応や他医院との連携もとれている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|------|----------------------------------|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | | |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | | |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> | | |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | | |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | | |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|--|--|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉かけや介護面では誇りや尊敬、プライバシーへの配慮、記録面では個人情報同意書を取り交わし記録の保管等に気をつけている。また、職員に関しても守秘義務を徹底し、同意書を作成している。面会については職員が把握し、職員記載にて面会簿を残している。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 職員側の決まりや都合で業務をすすめていくような態度ではなく、利用者一人一人が自分のペースで暮らしながら自分で決めたり希望を表したり行動することを尊重・支援しそれらを促す取り組みを日常的に行っている。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人が大切な人や地域とふれあい、交流する機会をもちながら束縛のない自由な暮らし、自信を取り戻し感情豊かに、それまでの生き方を大切に自然なかたちで持てる力を発揮して暮らせるように支援している。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 押し付けや画一的になることなく、普段の生活はもとより、外出や面会、年間行事等、生活の彩りにもあわせた利用者一人一人の個性を大切に髪型や服装、おしゃれを支援している。また、利用者一人一人の希望に合わせて理美容院の利用を支援している。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立には季節感を感じさせるものや利用者にとって昔懐かしいもの、個別のお祝い等を取り入れ食材選びを利用者と共に行い可能な限り買い物や調理も一緒に行っている。意思の確認が困難な場合には、好みを把握して献立や調理に活かしている。また、職員も一緒に食べながら食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 本人や家族の意向を取り入れながら過度になり過ぎないように支援している。 | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 下着・オムツまたはパットについては利用者一人一人その時々状態にあわせて使い分けている。排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮している。一人一人の排泄パターンを知ることによってトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴前に健康状態の確認をし、入浴して大丈夫か見極める。一人一人の希望にあわせ(時間帯・長さ・回数)くつろいだ入浴ができるように支援している。また、利用者の不安や羞恥心、プライバシー(誘導・着脱・洗身・洗髪・浴槽への出入り等)に配慮した方法を取っている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 利用者一人一人の睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者には一日の生活リズム作りを通じた安眠策を取っている。落ちつきのなさや緊張、疲労の程度に応じて一服したり心身を休める場面を個別に取れるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ホーム内での利用者一人一人が楽しみ事や出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組・週刊誌・園芸・食器洗い・掃除・洗濯物たため) | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者一人一人にお金の所持及び使えるように支援している。また金銭管理ができない場合にはその代替方法を家族と相談の上、定めており家族に定期的にその出納を明らかにしている。(こずかい出納帳にて確認) | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者が行きたいところを本人や家族から把握しており、実現できるように支援している。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 利用者や家族と相談・協力して、行事での外出や旅行等の機会を作っている。(地域の行事・ホーム主催の小旅行等を企画・実施している。) | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者が手紙や電話を日常的に利用できるような、プライバシーに配慮しつつ支援している。(手紙や電話利用の介助等) | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 馴染みの人たちが気軽に訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気・歓迎・関係再構築支援・湯茶の自由利用等) | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行わないということを全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。やむを得ず行う場合は家族に説明し、同意を得ている。そして全ての職員がその根拠・理由を認識し改善するケアを考えその実現に向けた取り組みを具体的にすすめている。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 利用者の自由な暮らしを支え利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合はその根拠が明白でその理由を家族に説明している。(外出の察知・外出傾向の把握・近所の理解・協力促進等) | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員は常に利用者を見守りやすい場所において、利用者一人一人の位置と様子を把握している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については保管場所、管理方法を明確に取り決めかつ、そのとおり実行している。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | けが、転倒、窒息、意識不明。行方不明等の緊急事故が発生した場合、対応策のマニュアルがあり全ての職員が内容を把握している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 利用者の緊急事態に備え対応マニュアルがあり、勉強会や研修会、職員会等にて全ての職員が周知している。 | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害マニュアル、ハザードマップにて職員及び利用者と共に勉強会を行っている。(利用者5/18,職員5/30勉強会実施)また、運営推進会議等を通じて協力をお願いしている。年2回避難訓練予定。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 入居時及び状況に応じて個別にて起こり得るリスクについて家族に説明し理解を得ている。また、その対応策を職員で話し合い適切なサービスを検討している。その結果を家族に報告している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 利用者の心身の状態に異変がみられた時は、主治医及・協力病院に報告し指示を仰ぐ。また、その都度家族に連絡を入れて相談をしている。全職員は早期発見と注意・観察・連携をとり、発生経過報告書にて記録を残す。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は利用者が使用する薬の目的や副作用・用法や用量を承知しており、利用者一人一人が医師の指示通り服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。また、薬の扱いについては薬管理責任者を置き鍵付きで保管している。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 便秘予防に配慮して、飲食物の工夫や排便誘導運動への働きかけ等を行っている。排便チェック表にて状態管理をしている。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 利用者の力をひき出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援・出血、炎症のチェック等)また、歯科医師との連携、歯科衛生士による口腔ケア指導等の支援。6/6運営推進会議にて「口腔ケアの必要性」歯科医師の講演予定。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人一人の摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを一日通しておおよそ把握している。 | | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症に対する予防や取り決めがあり、マニュアルをつくり職員は、勉強会等を通じ学び実行している。今回一早く新型インフルエンザの予防・対処について回覧し実践している。 | | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | ホーム内の衛生管理、特に厨房に関しては徹底し、清潔・衛生を保持している。また、食材の管理も担当職員を中心に常に安全・安心したものを使用している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 違和感や威圧感を感じさせず、利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮おしている。(玄関まわりはスペース担当がおり、工夫して草花を植え、手入れをしている。) | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間がいずれも家庭的な雰囲気を有しており調度の設備、物品や装飾も住居として安心感のある場所になっている。心地よさや能動的な言動を引き出すために五感に働きかけるような生活空間の中に採り入れている。(家事の音、食事のにおい、安らぎ潤いをもたらす絵やポスター、季節の草花等) | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間は家庭的な雰囲気であり、安心感もあり、利用者が一人になったり、気の合った利用者同士で自由に過ごせる居場所を確保している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれその人らしく安心して過ごせる場所となっている。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 気になる臭いや空気のだよみがないように換気を適度に行っている。また、冷暖房の温度調節は冷やし過ぎや暖めすぎないように適切に行っている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき・裁縫セット・園芸用品・趣味の品等) | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 見やすく馴染みやすい時計や暦を目のつくところに設置している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 建物の外周りに四季の草花や実になる木を植え利用者が散歩したり、園芸や草取りを行える。また、物干し場が設置され職員と共に干せる高さや干場の工夫がされている。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | |
|---|------------------------------------|
| 項目 | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 |
| 88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの |
| | <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない |
| 89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> ①毎日ある |
| | <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある |
| | <input type="radio"/> ③たまにある |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどない |
| 90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と |
| | <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと |
| | <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどできていない |

| 宮崎県 宮崎市 グループホーム101 項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|--------------------------|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ①ほぼ毎日のように |
| | | ○ | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

宮崎市のほぼ中央に位置し、交通の便が良い。まわりに公園や学校、また公共施設(図書館・博物館・美術館等)など環境に恵まれ利用者は職員と共に地域資源の活用ができる。ショッピングセンターでの買い物や散歩では馴染みの関係が築かれ施設開放(移動図書の中継等)することで近隣の方との交流の場となり施設にいながら家庭的な雰囲気を感じることができる。職員は常に向上心を持ち、利用者の笑顔を見出す努力をしている。利用者が自分らしく生活するために家族や地域の力をかりながら寄り添う支援を行っている。